



## 口唇ヘルペスとお薬について

疲れやストレスがたまっているとき、くちびるに違和感いわかんがあると思ったら、しばらくして赤い水ぶくれがいくつかできている…このような症状をくり返すことはありませんか？もしかしたら、それは口唇ヘルペスかもしれません。今回はそんな口唇ヘルペスについてお話したいと思います。

### 〇口唇ヘルペスとは？

口唇ヘルペスは、くちびるやその周りに痛みを伴う小さな水ぶくれやびらんができる感染性の病気です。口唇ヘルペスはヘルペスウイルスの1種である単純ヘルペスウイルス1型（HSV-1）が関与しています。乳幼児期に初めて感染することが多く、一度感染すると、一生涯体の中に生息し続けると考えられています。そして、疲労・ストレスなどによる免疫機能低下めんえききのうていかや紫外線による局所刺激きょくしょしげきなどが原因で潜伏するウイルスが暴れ出し、繰り返し口唇ヘルペスの症状を引き起こすのが特徴です。さらに、HSV-1は感染力が強いいため、唾液や水ぶくれの病変部びょうへんぶに接触することで周囲の人に感染が拡大することもあります。

### 〇口唇ヘルペスの症状は？

小児期で初感染した際は症状はほぼ無症状ですが、成人で初感染した際は腫れ・水ぶくれだけでなく強い全身症状を伴うことがあります。また、口唇ヘルペスの症状は、初感染か再発かによって症状が異なることがあり、さらに口唇ヘルペスによる皮膚症状は、発症前・発症期・回復期で変わります。発症前は、水ぶくれができる前に、くちびるやその周囲に軽いかゆみやピリピリ、チクチク等の違和感いわかん、熱感が現れます。発症期には、赤く腫れた上に水ぶくれができ、その後小さな水ぶくれが出現し、寄せ集まって大きくなることもあります。水ぶくれはくちびると皮膚の境目あたりに見られることが多いですが、鼻や頬部の皮膚に水ぶくれが生じることもあります。そして回復期には、水が乾いてきてかさぶたとなり、治癒ちゆするとされています。





## 〇〇唇ヘルペスの治療薬は（院内採用薬）？

口唇ヘルペスの治療には抗ヘルペスウイルス薬が使用されます。通常、内服薬が用いられますが、症状が軽い患者さんには軟膏なんこうが用いられます。また、重症の患者さんに対しては注射薬が用いられることもあります。なお、口唇ヘルペスの治療は、早期回復と重症化を防ぐため、水ぶくれがでる前段階（皮膚に違和感を感じているとき）のうちできるだけ早く治療します。

●抗ヘルペスウイルス薬の内服薬（アシクロビル錠、バラシクロビル錠・顆粒）：皮膚の症状だけでなく、神経節のウイルスの増殖ぞうしょくを抑える効果があり、5日程度内服します。アシクロビルはヘルペスウイルスのDNAに作用して、ウイルスが増えるのを抑えます。バラシクロビルはアシクロビルの吸収率きゅうしゅうりつを高めた薬で、体の中でアシクロビルに変換されて効果を発揮します。

●抗ヘルペスウイルス薬の軟膏（アラセナA軟膏）：再発ひんぱんの頻度が少なく、軽症の場合に処方されます。症状がそれ以上広がらないようにする効果があり、7日程度塗布します。なお、軟膏については病院で処方してもらうほかに、第1類医薬品として薬局でも購入することができます。ただし、軽症の再発時で、過去に医師から口唇ヘルペスの診断・治療を受けたことがある場合に使用可能です。

●抗ヘルペスウイルス薬の注射薬（ピクロックス注）：内服薬で効果が見られなかったり、発熱した場合やただれ・痛みが激しい場合など、すぐに効果が出て欲しいときに使用します。

## 〇〇唇ヘルペスの予防法は？：

口唇ヘルペスは、患部かんぶの清潔を保ち、他の人へ移さないように努めることが大切です。



- ①タオルや食器類は共用しないようにしましょう。
- ②手指の清潔を保ち、患部かんぶを触った後はすぐ手を洗うようにしましょう。
- ③口唇ヘルペスの水ぶくれの中には、たくさんのウイルスが詰まっています。また、水ぶくれが破れると治りが遅くなることもあるため、水ぶくれを触ったり破ったりしないように気をつけましょう。
- ④ストレスや発熱、風邪、過労などで体力や抵抗力が低下したときに発症することが多いため、日頃からバランスのとれた食事を心がけ、適切すいみんに睡眠・休息をとり、規則正しい生活を心がけましょう。～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～